

1) システムの名称：

病理検査支援システム nexusPath-Link (ネクサス パスリンク)

2) 対象業務、電子カルテシステム内での位置付け：

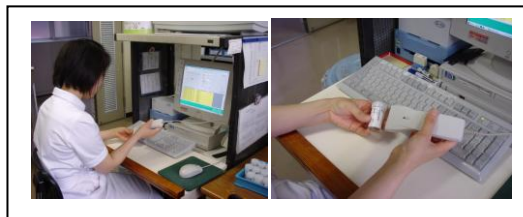
6. 検体検査系

3) 特色：

nexusPath-Link は病理部門専用検査支援システムとして開発され、病理検査依頼の受付から標本作成、スクリーニング、レポート作成まで、さまざまな業務をサポートする病理検査支援システムです。

■病理検査受付

内視鏡検査室や各診療室から検体と病理検査依頼書を受け取るとともに、電子カルテシステムと連携し、病理検査の「オーダ」を確認します。検体の確認が買収実に行え、検査依頼履歴も簡単に閲覧でき、「実施」入力も行えます。



■標本作成

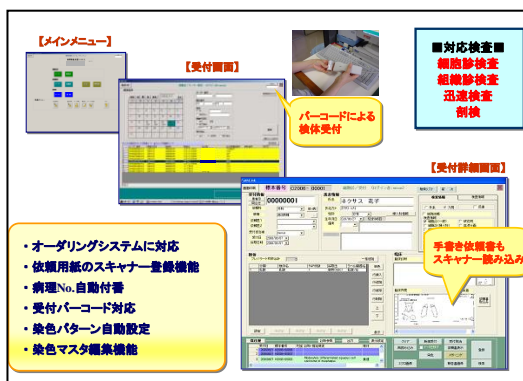
マイクロデジタルカメラ、顕微鏡デジタルカメラで撮影した検体画像をファイリング。ペンタブレットによって、検体画像の編集作業やコメント入力が行えます。

■スクリーニング

病理番号が入力されたバーコードラベルを印刷し、プレパラートに添付。膨大な数のプレパラートも効率的に管理できます。また、診断結果入力時には、取り込んだ画像が添付でき、クラス分類、判定、出現細胞の入力も可能です。

■レポート作成

レポート作成を支援し、レポートデータを管理蓄積が可能です。

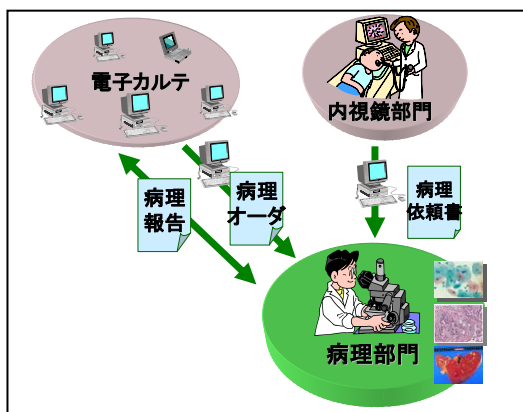


■内視鏡専用画像管理システム間連携

nexusSIF 内視鏡専用システムとの連携機能も装備しており、病理医と内視鏡医のご要求に柔軟に対応可能です。

■電子カルテシステムへの対応

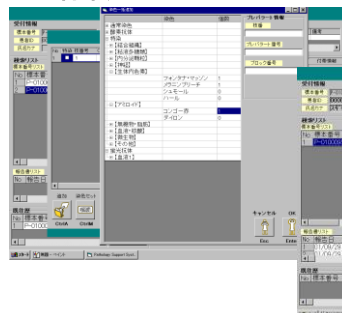
本システムに保存されている画像データ、検査レポート、診断情報を電子カルテシステムの端末上で参照する連携実績も数多くあります。



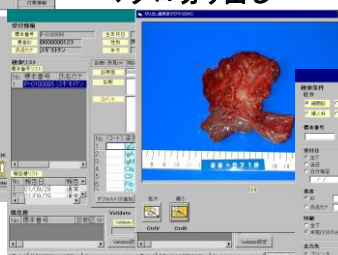
4) 画面／構成図を含めた分かりやすい説明：

■画面

特染処理



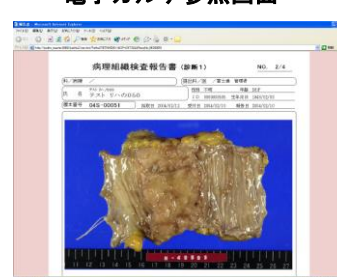
マクロ切り出し



進捗管理



電子カルテ参照画面



■ 構成図



5) 標準化への対応状況、未達成の場合対応予定および対応のための追加費用の有無：

SNOMED コード 1998 年版/Tコード、Mコード（有償）
 癌取り扱い規約、ICD-10 （無償）
 DICOM Ver3.0 Storage SCP（無償）/CSCU（有料）

6) 動作環境（ソフトの場合）、ハードスペック（ハードの場合）：

サーバ構成
 オペレーティングシステム：Microsoft Windows 2003 Server
 CPU：Intel Xeon プロセッサ
 メインメモリ：2Gbyte 以上
 クライアント構成
 オペレーティングシステム：Microsoft Windows XP Professional
 CPU：Intel Core2 DUE
 メインメモリ：1GByte 以上

7) 稼動までに必要な作業・期間：

上位システム接続仕様、レポート画面、マスタ等の打合せに約 4～6 ヶ月程度

8) 価格（桁数（日本円における桁数）、「ご相談」は不可、桁数帯・金額・金額帯を入れても良い）：

約 1, 000 万～（税別） ※システム構成により異なる。

9) 保守の内容と費用：

初期導入時：運用開始時後立会い、オペレーション教育
 稼働 1 年経過後 年間保守契約料：システム定価×8%（リモートメンテナンス含む/税別）
 スポット保守料金：基本技術料金¥25, 000+作業費¥16, 000/時間（出張料金、ハードウェア費用別/税別）

10) 問い合わせ先（販売会社 担当者、URL、e-mail 等）および開発元（もし別途あれば）：

富士フイルムメディカル株式会社 <http://fms.fujifilm.co.jp/>
 内視鏡システム事業本部 NX部 営業支援グループ
 〒106-0031 東京都港区西麻布 2-26-30 富士フイルム西麻布ビル
 TEL. 03-6419-8027 FAX. 03-5463-3407